

平成 19 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18 年 8 月 10 日

上場会社 はるやま商事株式会社 (コード番号：7416 東証第1部)
 (URL http://www.haruyama.co.jp/)
 問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 治山正史 TEL：(086)226-7101
 責任者役職・氏名 執行役員経理本部長 浅沼 明

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 ・たな卸資産については、実地たな卸を行わず、帳簿たな卸により算定しております。
 ・税金費用については、簡便法により計算しております。
 最近会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
 ・当連結会計年度より、子会社2社を連結対象会社として連結財務諸表を作成しております。
 (連結)新規2社 ... 日本フィナンシャルサービス株式会社、株式会社ミック

2. 平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	14,902	()	265	()	266	()	594	()
18年3月期第1四半期		()		()		()		()
(参考)18年3月期								

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	36 07	
18年3月期第1四半期		
(参考)18年3月期		

(注) 当四半期より連結財務諸表の開示を行っているため、前年同四半期実績、前期末実績及び増減率につきましては記載しておりません。

平成19年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における経済環境は、企業業績や各指標が堅調に推移し、個人消費の回復が期待されましたが、原油価格の高騰などの不安材料が依然として残る一方、気温がなかなか上がらないなどの天候要因により、春夏物衣料にとっては厳しい状況でありました。

このような環境のもとで、当社グループは当第1四半期も積極的な出店を続け、10店舗の新規出店及び1店舗の移転を行うとともに、CS運動(顧客満足運動)の展開や人材の育成など、お客様のご意見ご要望を最優先に考え、適時に顧客サービスに反映していく組織づくりを行ってまいりました。

主力の紳士服販売事業では、昨年の5月に新発売して大変ご好評をいただきました「アイススーツ」をより進化させた「新アイススーツ」を展開し、またワイシャツなどのクールビズ対応商品にトレンドとコーディネートを追及した品揃えを行うなど、お客様のニーズにお応えすべく努力いたしました。その結果、ワイシャツなどの軽衣料の売上は順調に推移いたしました。天候不順などにより紳士服売上全体では前年対比2.4%の減少となりました。

カード事業につきましては、紳士服販売事業における多様化した顧客ニーズに的確な対応が可能な

カードの発行を推進し、同事業の営業推進部門を強化・支援することを主たる目的として平成 17 年 10 月より本格的な事業活動を展開しております。当第 1 四半期におきましては、事業基盤構築のために「N I F I Sカード」の会員募集に力を入れると同時に、「紳士服」周辺の生活に密着した金融サービスを提供し、平成 18 年 6 月末現在の有効会員数は 104 千人、営業貸付金残高は 312 百万円となりました。

これらの結果、当第 1 四半期の連結業績は、売上高 149 億 2 百万円、営業利益 2 億 6 千 5 百万円、経常利益 2 億 6 千 6 百万円となりましたが、減損損失を 7 億 3 千 2 百万円計上した結果、5 億 9 千 4 百万円の第 1 四半期純損失となりました。

(2) 財政状態の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	59,229	35,642	60.2	2,164 67
18年3月期第1四半期				
(参考) 18年3月期				

(注) 当四半期より連結財務諸表の開示を行っているため、前年同四半期実績及前期末実績につきましては記載しておりません。

[財政状態の変動状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期における総資産は 592 億 2 千 9 百万円となりました。流動資産は 214 億 2 千 6 百万円、固定資産は 378 億 3 百万円となりました。また、流動負債は 170 億 1 千 9 百万円、固定負債は 65 億 6 千 7 百万円となり、負債合計は 235 億 8 千 7 百万円となりました。純資産合計は 356 億 4 千 2 百万円となり、この結果、自己資本比率は 60.2%となりました。

[参考]平成 19 年 3 月期の業績予想(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

当社においては、事業の性質上、第 4 四半期(1 月～3 月)の売上高、利益が他の四半期に比べて大きいという季節的な要因があります。

当第 1 四半期における業績は、当初の予想に比べて減損損失が大幅に増加したことなどにより、平成 18 年 6 月 9 日発表の業績予想を下回って推移しております。第 2 四半期(7 月～9 月)の業績の見通しが立ち次第、必要に応じて業績予想の修正を行う予定であります。

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	25,377	421	45
通期	60,373	4,775	2,034

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 121円14銭

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成 19 年 3 月期第 1 四半期末)	
	金額	構成比
(資産の部)		%
流動資産		
現金及び預金	2,114	
受取手形及び売掛金	276	
たな卸資産	14,741	
その他	4,304	
貸倒引当金	10	
流動資産合計	21,426	36.2
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,723	
土地	14,245	
建設仮勘定	164	
その他	2,491	
有形固定資産合計	26,625	45.0
無形固定資産	139	0.2
投資その他の資産		
差入保証金	5,705	
その他	5,482	
貸倒引当金	148	
投資その他の資産合計	11,039	18.6
固定資産合計	37,803	63.8
資産合計	59,229	100.0

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成19年3月期第1四半期末)	
	金額	構成比
(負債の部)		%
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,008	
短期借入金	700	
1年内返済予定の長期借入金	1,380	
ポイント引当金	463	
賞与引当金	479	
その他	2,987	
流動負債合計	17,019	28.7
固定負債		
長期借入金	4,587	
退職給付引当金	1,071	
役員退職慰労引当金	639	
預り保証金	198	
その他	70	
固定負債合計	6,567	11.1
負債合計	23,587	39.8
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	3,990	
資本剰余金	3,864	
利益剰余金	27,779	
自己株式	15	
株主資本合計	35,618	60.2
評価・換算差額等	22	0.0
少数株主持分	0	0.0
純資産合計	35,642	60.2
負債・純資産合計	59,229	100.0

(注) 当連結会計年度より連結貸借対照表を作成しているため、前年同四半期及び前連結会計年度については記載しておりません。

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成 19 年 3 月期第 1 四半期)	
	金額	百分比
		%
売上高	14,902	100.0
売上原価	7,044	47.3
売上総利益	7,857	52.7
販売費及び一般管理費	7,592	50.9
営業利益	265	1.8
営業外収益	70	0.5
営業外費用	70	0.5
経常利益	266	1.8
特別利益	7	0.0
特別損失	801	5.3
税金等調整前四半期純損失	527	3.5
税金費用	71	0.5
少数株主損失	3	0.0
四半期純損失	594	4.0

(注) 当連結会計年度より連結損益計算書を作成しているため、前年同四半期及び前連結会計年度については記載しておりません。